Come on gameland

聖なる写真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｃｏｍｅ　ｏｎ　ｇａｍｅｌａｎｄ

【Ｎコード】
Ｎ６９０９Ｒ

【作者名】
聖なる写真

【あらすじ】
突如連れて行かれた謎の世界。
脱出するために、ダンジョンを探索し仲間を鍛え、資材を集め、世界一の街を築け！
※更新は不定期です。

１ｓｔ　ｐｌａｙ　始まりは小屋の中（前書き）

復帰作第二弾。
感想、評価お待ちしております。

1st play 始まりは小屋の中

少女、“神草真央（かみくさまお）”は自分の記憶の中にはまったくない小屋の中で目覚めた。　しかも地面に。

（……ここはどこ？　そうだ……たしか私は学校に行こうと電車に乗ってて……）

そうだ。　確かに電車に乗っていた。　自分の周りには自分と同じ青陵高校の制服に身を包んだ少年少女たちがたくさんいたはず。

そんな時、　急に衝撃が来て……

（多分あれは電車が何か事故を起こしていたんだと思う……でもそれなら、　どうして私はここに？　）

彼女が住んでいた地域は都市区域といってもいいほどのコンクリートジャングルであったはず。　少なくとも、　こんな木造建築は彼女が住んでいた地域にはなかったはず。

（電車事故？　……だったらここは病院？　……いや、　もし病院が受け入れる余裕があるのなら患者はベッドに寝かせるはず……ん？　）

そこまで考えを張り巡らせながら、　彼女はすぐ近くのテーブルの上でメールの受信音のようなものがなっているのを聞いた。　なんだろう？　と身体を起こして２つの異常な点にようやく気がついた。

１つは“事故にあった”という仮定が成立しているとしてだが、

痛みが全くないのだ。　運よく怪我がなかったとしても、　どこかに身体を打ち付けるはずだ。　柔道を学んだことのある人なら、とっさに受け身をとったのかもしれないが、　あいにく彼女は柔道どころか護身術全般を会得した経験などない。

もう１つは服装。　彼女の服は青陵高校のものではなく、　どこかの民族衣装のような服装だ。　さらに、　中世ファンタジーでありそうなマントもまとっている。

（ど……どういうこと？　……あ、　メール）

そこで気がついて彼女は机の上を見る。

（……パソコン？　それに真っ黒な携帯……どうしてこんなところに……？　）

もしかしたらこの小屋の持ち主かも。　ならば触らない方が……そう一瞬思ったが、　その考えを速攻で振り払い、　パソコンのメールを確認する。

【受信ボックス００１】
Ｆｒｍ：ＧＭ
Ｓｕｂ：ｗｅｌｃｏｍｅ　ｔｏ　“Ｕｔｏｐｉａ”
――――――

ようこそ“神草真央”様。
私（わたくし）この“Ｕｔｏｐｉａ”の管理人である“ＧＭ（ゲームマスター）”と申します。
さて、　貴女様にはこれから“街”を作り、　発展させ、　人材を集め、　“メインクエスト”をクリアしてきながら、　最終的には“魔王”を討伐してもらいます。
無論、　いきなりそんなことをいわれても混乱するだけでしょう

から、　まずはこちらの指示に従いながら、　基本を覚えていきましょう。
まずは、　デスクトップより“倉庫”をお選びください。

――――――

「……正直、　ふざけてるとしか思えないなあ……“街”を作って魔王退治ねえ……」

まあ、　やってみようか。　そう呟きながら、　メールフォルダはそのままにデスクトップにある“倉庫”を選択する寸前、　慌ててさっきのメールを確認する。

「……な、　なんで私の名前が……！？　」

思わず呟く。　そのまましばらく硬直していたが、　気を取り直すと、　そのまま“倉庫”を選択する。

【倉庫】
金貨　　０
食糧　１０００
石材　１０００
木材　１０００
－Ｎｏ　Ｉｔｅｍ－

だからどうした。　といわんばかりに頭に“？”を浮かべていると再びメールの受信音が。　慌てて、　出しっぱなしにしていたメールの受信ボックスを確認する。

【受信ボックス００２】

Ｆｒｍ：ＧＭ
ｓｕｂ：開発について０１
――――――

“倉庫”は確認されましたね？
では次は“開発”をしてみましょう。
デスクトップより、“開発”を選んでみましょう。
そして、“発展”“街の中心”を選んで、街の中心を発展させてください。
そうすれば、貴女のほかに５人眠るスペースが確保できます。
――――――

（次は“発展”っと……）

デスクトップ上の“発展”を選択すると、アプリが発動しする。
アプリ上には、“確認”“発展”“建築”の３つの文字がでかでかと出ている。
彼女はその内から“発展”を選択すると、今度は発展の文字は上部へ小さくなり、他の文字は消え、代わりに“街の中心Ｌｖ１”の文字が現れる。
何のためらいもなく、それを選択すると、今度は別のウィンドウが現れる。

【確認】

“街の中心”Ｌｖ１→Ｌｖ２

必要資材
食糧　３００

石材　２５０
木材　３５０

よろしいですか？【はい】【いいえ】

――――――

そのまま【はい】を選択すると、　ズドンという轟音とともに地面が激しく揺れる。

「！？　」

揺れはそれだけで終わったが、　真央は慌ててすぐそばにあった扉から外に出る。

「な……！　な……！？　」

開いた口が塞がらないとはこういうことをいうのだろう。
それもそのはず。　彼女が見たものは、　自分が目覚めた小屋以外にまったく何もないといってもいいくらいの平原だったからだ。
いや、　よく見れば、　自分が目覚めた小屋――――――以後、街の中心と呼ばせてもらう――――――を中心とした粗末な柵があるが、　あんなものは非力な彼女でもその気になれば壊せるんじゃないだろうか？

「……いったいここは……」

ピロピロリン♪

「ひい！？　……なんだメールか」

突如響いた音に恐怖するが、　すぐにメール着信音だと分かり、安堵のため息をもらしながら、　再び街の中心に戻る真央。

（……あれ？　あんな扉あったっけ？　）

彼女が目覚める前にはなかった扉。　それに一瞬だけ疑問を抱くが、　まあいいやとパソコンに向かい座る。

そして、　新たに受信したメールを確認する。

【受信ボックス００３】
ｆｒｍ：ＧＭ
ｓｕｂ：開発について０２
――――――

開発は無事に成功したようですね。

今回の開発で、　新たに５人分の眠るスペースが確保されたわけです。

この調子で街を次々に“開発”して魔王を討伐するための準備が整えられる街にしましょう！

なお、“開発”には“資材”が必要となります。“資材”は十分な量を蓄えてください。

特に“食糧”は貴女の食事にも必要となります。

「１人の１回の食事＝食糧１」となっていますので、　食糧だけは切らさないようにしてください。

次は“建築”を選んで、　強固な城壁を気付いてください。

もうすでにご確認されたかと思いますが、　現在貴女の街を守るのはかなり貧弱な柵です。

新たに強靭な城壁を建築して、　敵からの攻撃から身を守ってく

ださい。

――――――

「……敵？　」

（敵って一体……なにも分からない以上、　このメールの指示に従った方がいいのかも）

そのまま真央はメールの指示どおり、“建築”を選ぶ。

“建築画面”には様々な項目が並んでいたが、　彼女はためらうことなく“城壁”を選択する。

……正直、“本屋”や“人形屋”などは少しだけ心揺さぶられたが。

【確認】

建築“城壁”

必要資材

食糧　３００

石材　４００

木材　３５０

よろしいですか？【はい】【いいえ】

――――――

なにもためらわず【はい】を選択する。

すると再びドスンという轟音が響き渡り、　地面が激しく揺れる。

（仕様なのかな……この揺れ……正直なんとかしてほしい……）

少なくとも、　これで“敵”からの攻撃は防げるわけだ。
そう彼女が一息つくと、　再びメールの受信音が。
油断していたところにきたので、　驚きのあまり椅子から転げ落ちそうになるのをなんとかこらえてメールを確認する。

【受信ボックス００４】
ｆｒｍ：ＧＭ
ｓｕｂ：探索について０１
――――――

これで“開発”についての説明は終了です。
次は“探索”ついてご説明します。
パソコンの近くに携帯がありますのでそれを持って外に出てください。
するといくつかの選択肢が出ますので、　今回は“林道”を選択してください。
その後のことは携帯のメールでお知らせします。

――――――

メールを読み終えた後、　パソコンのすぐ隣にある黒い携帯を見て一瞬ためらうが、
（どっちにしろこのままじゃ状況は好転しない。それなら罠だとしても行くしかない）
そう決意すると、　携帯を握りしめて、　“街の中心”からドアを開ける。

そのまま、　だれもいない広いスペースを歩きぬけると、　ある程度は立派になった城壁を見ながら、　城門へと歩を進める。
そのまま扉を開けようとするが、　その扉はまるで外からカギをかけたかのように強固だった。

（あれ？　外出れないじゃん）

そう思ったのもつかの間。　すぐ扉に謎の画面が現れる。
真央は驚いて２、　３歩後退するが、　そんなことはお構いなしに、　謎の画面は絵と文字を映し出す。

＞ｉ１９９４５―２００５＜

「……いや、　これゲームとしては当然なのかもしれないけど、リアルだとこれはないわよ……」

このへたっぷりはゲームでもないですね。　ハイ。
とりあえず、　その内改善されることを期待して、　真央は“林道”を選択する。
すると強固だった扉は、　少しずつ音を立てながら自動的に開いていく。

（……うるさい）

一通りチュートリアルが終わったら意見しておこう。　そう密かに誓った真央は完全に開け放たれた扉から外に出る。
その瞬間、　軽い立ちくらみがしたと思ったら、　周りはすでに木々が生い茂っていた。

（……やば、　なにこれ）

草木薫る木々の間の獣道を、真央は一歩一歩踏みしめて歩き出した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6909r/

Come on gameland

2011年10月4日17時49分発行